様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：３３７０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０２６１４

研究課題名（和文）地域学習における効果的な活用を目指した語りのデジタルアーカイブに関する研究

研究課題名（英文）Research on digital archives of oral history aimed at effective use in regional studies

研究代表者
谷　里佐（TANI, Risa）

岐阜女子大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：１０４４０５５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域学習の貴重な資料の一つである「人の思いや体験談を伝える語り（オーラル・ヒストリー）」について、デジタルアーカイブの手法を用いた教材化の実践から、教材を効果的に活用するために、話者の話やその関連資料といった語り（オーラル・ヒストリー）に関わる各種資料を、動画や写真などのデータごとに個別に組み合わせて利用できる形式で提供するための構成要素をまとめた。また、地域学習教材への適用例として、「鵜匠さんの話から学ぶ　ぎふ長良川の鵜飼」を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、人の思いや体験談を伝える語り（オーラル・ヒストリー）を地域学習の教材として捉え、デジタルアーカイブの実践を通して、語り（オーラル・ヒストリー）のデジタル教材化に必要な資料データの内容と構成をまとめたものであり、デジタル教材データの記録、提供の両面から、地域学習の教材に必要な構成要素を提示した点に学術的意義がある。また、語り（オーラル・ヒストリー）のデジタル教材化は、地域学習への利用のみでなく、人々の思いの継承でもあり、社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the effective use of oral history, which is one of the valuable materials for regional learning, through the practice of turning it into teaching materials using digital archiving techniques. In order to make use of the materials, we have developed components for providing various materials related to narratives (oral history), such as the stories of speakers and related materials, in a format that can be used by combining data such as videos and photos individually. Summarized. We have also created “Learning about cormorant fishing on the Gifu Nagara River from the stories of cormorant fishermen” as an example of its application to local learning materials.

研究分野：デジタルアーカイブ

キーワード：地域学習　伝統文化　デジタルアーカイブ　オーラル・ヒストリー　デジタル教材

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

「事物・事象にこめられている地域の人々の願いや努力を見出すこと」は、地域学習の主要なねらいの一つといえるが、実際に地域の人々の話を見聞きする活動を地域学習や伝統文化教育など、教育現場で取り入れることは難しい面もある。それは、学校行事とカリキュラム編成との兼ね合いや、地域の人々と学校との調整など、さまざまな条件のクリアが必要とされるからである。さらに、条件に適した人材を調査し、把握する時間を割くことも教員に求められる。また、地域の人々、とくに、地域学習のテーマとなり得る伝統文化に携わる人々も、たとえば、伝統産業の担い手の高齢化や後継者不足などにより、技の継承が出来ないことによる衰退が課題になっており、その思いや体験談を聞く機会が失われることが危惧されている。

つまり、地域学習や伝統文化教育として、地域の人々の願いや努力を見聞きすることは重要であると考えられるが、それを実現することが、教育現場側からも、話者となる地域の人々側からも困難な状況があるのではないか。

そこで、人の思いや体験談を伝える語り（オーラル・ヒストリー）について、デジタルデータによる保管、利活用への適用が可能になるデジタルアーカイブの手法を用い、地域に根差す伝統文化とそれに携わる人々の語りを記録し、デジタル教材化することに着目し、そのための資料の構成要素と構成方法を明らかにする必要があると考えた。

２．研究の目的

人の思いや体験談を伝える語り（オーラル・ヒストリー）をデジタルアーカイブの手法を用いて記録、デジタル教材化を行い、教員が地域学習で効果的な活用ができる教材環境としての資料の構成要素と構成方法を明らかにする。

３．研究の方法

(1) 語り（オーラル・ヒストリー）のデジタルアーカイブの過去事例の検証

過去事例として、岐阜女子大学でこれまで取り組んできたオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ化に関し、教育資料、地域資料、伝統文化資料など、さまざまな分野の資料に関わる口述記録とそれらの利活用に関わる課題を抽出する。これらを、教員へのオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブの利用に関する調査結果とあわせて検証する。

(2)「長良川鵜飼」に関わる語り（オーラル・ヒストリー）のデジタル教材化

(1) の検証結果をもとに、語り（オーラル・ヒストリー）のデジタル教材化を行う。具体的には、岐阜県岐阜市の伝統文化、文化財として「長良川鵜飼」を取り上げ、「長良川鵜飼」の鵜匠の語り（オーラル・ヒストリー）と関連する資料のデジタル教材化により、資料の構成要素と構成方法を追究する。

４．研究成果

(1) 語り（オーラル・ヒストリー）のデジタルアーカイブの過去事例の検証

①　木田宏オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ

木田宏オーラル・ヒストリーは、木田宏氏（元文部事務次官）による戦後教育についての語りであり、国内でも多く記録されている政策研究分野のオーラル・ヒストリーである。木田宏オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブは、木田氏の語りの一部映像、文字起こし、語りに関連する各種資料をパソコンや携帯情報端末などで利用が可能なコンテンツとしてまとめたものである。これまで、戦後教育関係の研究者や教育学を学ぶ大学院生、学部生の教育研究の教材など、さまざまに利活用されている。しかし、研究者や学生以外の一般利用者の一部から、動画のみを自宅テレビで鑑賞したい、関連資料はデータではなく冊子のような紙媒体で使いたい、といった別形態での利用希望が寄せられている。デジタルアーカイブとして構成する資料（情報資源）は保存されているため対応は可能であるが、一般利用者らが自由に別形態での利活用ができる形ではないため、個別対応が必要となることが課題である。

②　和田家オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブ

和田家オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブは、世界遺産「白川郷」の和田家（国重文）の当主による、世界遺産白川郷や国の重要文化財である和田家の歴史的背景をはじめ、当主自身の子どものころの思い出や先人の知恵とその伝承への思いを映像記録し、話に関連する各種資料などとともに、伝統文化教育のための教材冊子としてまとめたものである。これまで、伝統文化を学ぶ大学院生や学部生のほか、小学生の地域学習、教員専修免許状公開講座の教材などに利活用されている。和田家オーラル・ヒストリーを利用した小・中・高等学校などの教員の自由記述による意見では、「現地で学ぶ事は困難であるため、デジタルアーカイブを利用して文化財を視聴し、語りべ（解説者）の現地からの生きた声を聞くことで、効果的に学習を深められる」などの意見がある一方で、小学生の地域学習の利用における教員からの意見聴取では、「当主の語りの映像視聴を授業内で取り入れることが出来なかった」や「当主の語りの映像の内容は教材冊

子で読むことができるため、映像と冊子の内容が違うと良かった」という意見が出された。和田家オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブでは、当主の語りについて、映像で視聴できる内容を教材冊子でも文字で紹介（説明）している項目と紹介していない項目がある。このことについて、映像視聴ができない場合は文字情報での補完を求め、映像視聴ができる場合は映像で視聴したことと異なる文字情報を求めている。利用状況や利用者の考え方の差異により、デジタルアーカイブとして構成されたコンテンツに使いにくさが生じていることが課題である。

（2）「長良川鵜飼」に関わる語り（オーラル・ヒストリー）のデジタル教材化

①　デジタルアーカイブの構成

デジタルアーカイブの構成について、デジタルアーカイブの保存（保管）形式から分類した、単体保存（保管）・集合保存（保管）・構成保存（保管）という捉え方がある。これらを利活用のための資料（情報資源）を構成する観点で整理すると以下のようになる。

●単体型　～資料単体の構成～

一つ一つの資料にその資料の説明情報（メタデータ）を付けて記録、提示する構成。複数の資料が同じレベルで記録、提示されているので、資料について理解が深められるが、その資料に関する基礎知識がない場合は利活用が難しい。

●集合型　～資料データごとに集合させた構成～

ある資料群に関して、動画データ、静止画データ、文字データなど、さまざまなデータ種別ごとにまとめ、提示する構成。利用者が、データをダウンロードして、自由に利活用できる。関連する複数の静止画あるいは動画をまとめてダウンロードして利用することもできる。しかし、単体型と同様に、その資料に関する基礎知識がない場合は、どのように利活用できるか把握することが難しい。

●構成型　～資料を作り手の意図により自由に構成～

ある資料群に関して、作り手が「こう見せたい」、「このように使って欲しい」という意図のもと、メニューや内容などを構成し、体系的なコンテンツとして提示する構成。ホームページや電子書籍、紙媒体のリーフレット、パンフレットなどに代表される。単体型・集合型に比べ、作り手が内容構成をしているため、その資料に関する基礎知識がなくても、たとえば、ホームページであればメニューを適当にクリックして閲覧するだけでも内容把握ができる。ただし、作り手の意図と異なった利用（二次利用など）は難しい。

単体型・集合型・構成型ともに利点も問題点もあるが、(1) の過去の事例や教員の意見などから、語り（オーラル・ヒストリー）のデジタルアーカイブの地域学習への適用を考える場合は、さまざまな教育場面（利用状況や利用者の考え方）にあわせた利活用ができることが必要であるため、データをまとめてダウンロードし、利用者の意図にあわせて再構成できる集合型を中心に、構成型を組み合わせた構成を採った。

②　「長良川鵜飼」鵜匠の語りの記録と「鵜匠さんの話から学ぶ　ぎふ長良川の鵜飼」の作成

小学生などへの「長良川鵜飼」の説明、ワークショップなどのご経験も多い、杉山秀二鵜匠にご協力いただき、鵜飼の魅力や継承についての思い、コロナ禍での鵜飼や鵜飼漁について、などをテーマにした鵜匠の語りを記録した（図 1）。また、鵜が魚を捕える様子や鵜匠が装束をまとう様子の実演を、大人（一般）向けと小学生向けに分けてそれぞれ記録した（図 2）。

図 1　撮影記録打ち合わせの様子

図 2　実演の様子

語りのテーマでは、「長良川鵜飼」の歴史や特長を知ることができる解説的な内容と杉山鵜匠の「長良川鵜飼」への思いを知る内容の両面から設定した。

また、関連資料として、「長良川鵜飼」の鵜飼漁（狩り下りや総がらみ）の様子、「長良川鵜飼」以外に現在（2023）全国 11 か所で実施されている鵜飼（中断中の場所を含めると 12 か所）についての資料収集も行った。

これらの各種資料データを集合型で整理し、あわせて、集合型と構成型で構成したリーフレッ

トを作成した。リーフレットは一枚の用紙を折ることで、8 ページから 16 ページの小冊子として利活用ができる“マジック折り”の形式でまとめた（図 3)。

図 3　「鵜匠さんの話から学ぶ　ぎふ長良川の鵜飼」リーフレット表面

③　まとめと今後の課題

（1）の過去事例で報告した、木田宏オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブと和田家オーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブの利活用において、利用者から寄せられた意見などから見出された課題は、いずれも、デジタルアーカイブの各構成資料（情報資源）を利用者が自由に再構成することが出来ないことに起因するものである。デジタルアーカイブは、作成者の考えによって構成されていることが特長であるため、それ自体は利点として働くことが多い。しかし、多くの利用者の希望に沿った利活用を想定すると、齟齬が生じる。

とくに、デジタル教材の利活用という視点では、教員が自らの授業計画やねらいに沿って、デジタル教材を活用する際の活用場面や形態は多様であるため、デジタルアーカイブの作成者の考えによる構成に従うことは、使いにくさに繋がると考える。

そこで、デジタルアーカイブを利活用のための資料（情報資源）を構成する観点で整理した単体型・集合型・構成型の内、「集合型」と「構成型」を組み合わせる形式が、語りの映像や文字起こし、関連資料といった多様な資料データを総合的に取り扱うことの多いオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブには合致すると考え、「長良川鵜飼」鵜匠の語りのデジタル教材化に適用した。

このような「集合型」と「構成型」を組み合わせる形式では、利用者は、自分で資料データ（情報資源）を選び、整理したり、選んだものを編集したり、組み合わせるなどの再構成をした上で自分の利用目的に応じた利活用を行うことが期待できる。これは、情報を選び、収集して整理したり、その情報を自分のテーマに沿って編集し、新たな意味や価値を付与するキュレーション（curation）に通じる。ただし、キュレーションには、適応した資料（情報資源）のメタデータ（説明情報）の検討が求められる。人の思いや体験談を伝える語り（オーラル・ヒストリー）の資料に付与すべき説明情報（メタデータ）の記述項目とその内容については、今後の課題である。

（謝辞）

「長良川鵜飼」鵜匠のオーラル・ヒストリーのデジタルアーカイブに取り組むにあたり、杉山秀二鵜匠はじめ関係者のみなさまに多大なるご支援をいただきました。語り（オーラル・ヒストリー）のデジタルアーカイブの記録および利活用に関しては話者および関係者のみなさまのご理解、ご協力により実現できるものであり、感謝いたします。

また、鵜匠のオーラルヒストリーや長良川鵜飼の撮影、デジタル教材化に取り組んでいただいた岐阜女子大学の学生・大学院生のみなさんにお礼申し上げます。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 谷里佐	４．巻 38
２．論文標題 地域学習における効果的な活用を目指した語りのデジタルアーカイブ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	６．最初と最後の頁 122-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 谷里佐，松川禮子	４．巻 201
２．論文標題 新しい「デジタル文化創造」に向けて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 アーカイブDataReport	６．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 玉井ひなた，谷里佐	４．巻 208
２．論文標題 鵜匠のオーラルヒストリーのデジタルアーカイブ～長良川鵜飼にかかわる想いを伝える～	５．発行年 2023年
３．雑誌名 アーカイブDataReport	６．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 谷里佐	４．巻 37
２．論文標題 語りのデジタルアーカイブにおけるデジタル音声ペンの活用	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	６．最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 谷里佐・木幡智子・後藤忠彦	4．巻 125
2．論文標題 木田宏オーラルヒストリー等から見る 資料の保管・活用の重要性について	5．発行年 2021年
3．雑誌名 アーカイブDataReport	6．最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 谷里佐	4．巻 39
2．論文標題 地域学習における効果的な活用を目指した語りのデジタルアーカイブ（2）	5．発行年 2023年
3．雑誌名 日本教育情報学会年会論文集	6．最初と最後の頁 73-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 谷里佐	4．巻 2021・2022
2．論文標題 資料の記録・管理・活用の発展を基礎としたデジタル文化の展開	5．発行年 2023年
3．雑誌名 デジタルアーカイブ研究所年報	6．最初と最後の頁 74-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 谷里佐
2．発表標題 地域学習における効果的な活用を目指した語りのデジタルアーカイブ
3．学会等名 日本教育情報学会
4．発表年 2022年

１．発表者名 谷里佐
２．発表標題 「エピソード記述」の視点を取り入れた メタデータに関する一考察
３．学会等名 デジタルアーカイブ研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 谷里佐
２．発表標題 語りのデジタルアーカイブにおけるデジタル音声ペンの活用
３．学会等名 日本教育情報学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 谷里佐
２．発表標題 地域学習における効果的な活用を目指した語りのデジタルアーカイブ（2）
３．学会等名 日本教育情報学会
４．発表年 2023年

〔図書〕　計3件

１．著者名 林知代，櫟彩見，谷里佐，熊﨑康文，久世均，吉川晃，坂井知志	４．発行年 2023年
２．出版社 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所	５．総ページ数 66
３．書名 デジタルアーカイブ概論	

１．著者名 井上透・三宅茜巳・林知代・櫟彩見・谷里佐・久世均・加藤真由美・細川季穂	４．発行年 2021年
２．出版社 樹村房	５．総ページ数 76
３．書名 新版デジタルアーキビスト入門	

１．著者名 谷里佐	４．発行年 2023年
２．出版社 岐阜女子大学	５．総ページ数 9
３．書名 鵜匠さんの話から学ぶ　ぎふ長良川の鵜飼（リーフレット）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関